

令和3年度事業計画

1. 基本方針（理事長：窪田 茂）

昨年度に始まったコロナウィルスの影響がまだまだ続く中、ワクチンの接種も始まり、アフターコロナと言われる時代に近づきつつあります。昨年延期された東京オリンピックが開催される事になれば、このどんよりとした世界が少し明るくなるかもしれません。

2021年は、JCD60周年という事もあり、記念事業を開催致します。すでに委員会が立ち上がり、活動をスタートし始めております。この60周年記念事業で、全国の支部とも協力しながら、各支部でのトークイベントを始め、オンラインを駆使しながら、全国支部とのネットワークをより活性化させ、JCDを益々盛り上げていきたいと考えております。

今年の大きなテーマはふたつ。

「情報発信と情報共有の更なる強化」

昨年に引き続いた内容ですが、すでにFBやWEBなどでの情報共有はできつつありますが、これをもっとスムーズに、もっと広範囲に、外へ外へと届けられるようにしていきたいと考えております。それは結果的に、支部間のコミュニケーションの活性化にもなりますし、JCDの認知度の向上にも繋がると考えております。JCDが発信する情報が増えれば増えるほど、JCDが活発な活動をしている団体だと認識して頂けると思います。

「デザイナーの発掘と発信」

最近の若手デザイナーは優秀な人が多いですが、あまり目立たなくなってきました。しっかりと私たちがデザイン団体として彼らを拾い上げていく事が重要だと考えます。また、まちづくりやプロデューサーなど新しい考え方を持ってきている人が、特に地方に増えてきていると思います。JCDはデザイナーの団体ではありますが、建築やまちづくりといった方々ともネットワークをつくり、新しい価値の発見をしつつ、それをオンライントークイベントなどを通して情報の発信に努めて頂きたいと考えております。

合わせて、日本空間デザイン賞の第3回が開催されますが、海外とのネットワークも含め、アワードを進化させていきたいと考えております。

また、止まっていたEAST GATHERINGもオンラインでの開催を検討し始めております。

昨年同様、メンバーの増強と若返り、アワードの活用、賛助会員とのコミュニケーション、メンバー交流の活性化、プロダクトオブザイヤーやIDMなどの活性化をさらに進めたいと思います。

2. 主要事業計画の概要

(1) 事業部（部長：小坂 竜）

（副理事長：永井資久）

・副理事長としての事業計画

・会員増強

正会員獲得、一般賛助・設計企業賛助・教育賛助グループ構成の検討

- ・他団体との協働
空間デザイン機構・DSA・JID・JIDA・AIA・IDM 等
- ・行政及びメディアとの関係性構築
経済産業省・国交省・日経新聞社グループ・アクシス・商店建築社・各大使館等
- ・60周年事業への協力
実行委員会への参加協力
- ・事業部長の補佐としての事業計画（担当：小坂事業部部長）
- ・各委員会への協力支援

（委員長会議議長：大滝道晴）

■事業部全体としてビジョン

- 事業部 8 委員会が、“JCD の顔” として、更なる「発信力」「訴求力」等を高め、デザイン活動を通じ、社会に貢献するための団体として積極的な活動と次世代の担う会員を確保する。
- 埋もれている人材（正会員、賛助会員）を、各委員会に参画してもらい、新しい息吹を混入し、活性化を計る。
- 常に、次世代を見据えながら、意識改革を推し進める。（脱・マンネリズム）etc
- 事業部として、活動の中に SDG s に対する検討を開始する。

■各委員会

1. [空間デザイン賞委員会]

DSA との信頼関係を高め、日本を代表するこのアワードを、連携して、よりバリューのあるアワードの推進をサポート。

2. [Soda 委員会]

- 委員長、副委員長、コアメンバー等の方々と協力して、新しい活動アイテムを考える。
- また、現場（小学校等）で状況を把握し、次世代の社会との授業への取組等を参考に、真の“子どものための教育とは”、“デザインを通じた教育とは”等を討議して、徐々に活動に反映していく。

3. [賛助委員会]

- JCD が単独で行われる唯一のアワード事業の「プロダクトオブザイヤー 2021」は、第 15 回を迎え、従来はやや内部側のこの活動を、外部への発信を積極的に高め、JCD の“顔”となる活動としてスケールアップを目指します。（雑誌『商店建築』の掲載、ジャパンショップにブース出店等）賛助企業がアワードへのエントリーを増やし、賛助企業の知名度及び製品の売上に貢献できる体制、組織づくりをめざします。
- 新規賛助会員等の募集強化。
- 賛助会員と正会員が共にメリットを感じてもらえる委員会へ。
（賛助企業全国版冊子の実施に関しては、継続審議項目とする）

① デザイン賞委員会（委員長：笠原英里子）

本年度より体制を運営部会、審査集計部会、広報部会に分け、さらに各部会委員

会を 3~4 に細分化及び強化して業務を推進していく。各部会で決定した事項をアワード事務局でまとめ調整を行う。さらに1ヶ月に一度のペースでJCD+DSA 三役会議を開催し、決定事項の確認と承認を行ない最終決議として進行する方法をとる。本年度よりコンプライアンス協議会も体制に加える。

第3回となる日本空間デザイン賞2021は下記の日程に基づき事業を進めていく。

○2021年1月令和3年度日本空間デザイン賞委員会キックオフミーティング

○2021年4月1日~6月18日公募期間

○6月29日一次審査員への審査方法説明(リモート)

○7月1日~10日ネット1次審査

(審査員Aグループ30名、Bグループ30名、Cグループ30名、合計90名)

本年度はさらに専門性を強めた審査員構成とする

○7月15日一次審査後事前チェック

○7月17日一次審査調整会議 Long List を決定。

○7月23日~31日ネット2次審査

(審査員Aグループ8名、Bグループ10名、Cグループ10名、理事9名、合計34名)

○8月3日二次審査事前チェック

○8月7日二次審査調整会議 Short List を決定。

○8月8日~27日 Short List 受賞者のA2ボード2枚製作期間

○9月25日(土)公開三次審査/ファイナル審査 11ジャンル各々に金賞、銀賞、銅賞を選出 東京デザインセンターにおいてライブ配信を行う。

同日、非公開で金賞11作品からKUKAN OF THE YEAR 1~3作品を選出。発表は後日贈賞式において行う。

○11月12日(金) 贈賞式及び懇親会 東京デザインセンターにおいて

●本年度はHPを刷新し、3月にオープンする。

●本年度はiFデザイン賞(ドイツ)とパートナーシップ契約を締結し、審査の免除・双方の広告宣伝に協力をする。海外との連携を強化してゆく。

●受賞者は年鑑に掲載予定

●GOOD DESIGN MARUNOUCHIにおいて KUKAN DESIGN AWARD 2021展を開催
トークイベント、懇親会を計画

●2021年度も日本空間デザイン賞オンラインセミナーを数回開催予定

② Soda委員会(委員長:新藤 力)

令和3年度もSoda委員会にとってはまだまだ不自由な状況が続くと予想されます。学校も何もしない学校と、工夫をしながら徐々に外部講師を受け入れる学校と対応が分かれています。概ね何とかしようという風潮が生まれています。私たちも昨年度、オンラインの活用、サイズダウンや時間短縮、日程の分散などの工夫をしてワークショップを実施することができました。今年も要請があれば出来る限り応えていきたいと思っております。おそらく感染リスクが0になることはないでしょう。“何も起こさないために何もしない”のではなく、どのようにしたら何ができるか?困難な時だからこそ、信念を持って活動を継続したいと考えてい

ます。

③シンポジウム委員会（委員長：飯島直樹）

JCD60th にあたりシンポジウム委員会も以下の事業を継続計画します。

1. JCD 連続シンポジウム SECTION62 の継続開催

令和2年度に行ったオンライントーク「クラマタを語る」01, 02 に続くオンライントーク

03:4/19 藤森泰司、倉本仁、寺田尚樹（ファシリテーター）

04:5/21 近藤康夫、中道淳、（ファシリテーター）

05:6 月 総集的な公開シンポジウムを予定（コロナ禍次第）

以上の開催レポートは60th 記念誌に記載する

2. 11月の60th 記念パーティ前後に、60thにちなんだミニオンライントークを企画する

3. 60th 記念誌発行に向けて、シンポジウム SECTION のアーカイブ整理などに協力する

4. SECTION63 以降の新たなフェーズを構想し、企画する

④広報委員会（委員長：水谷晶人）

■水谷晶人委員長、中村茂雄副委員長、大原信子副委員長

1) JCD公式パンフレット2022の発行。

2) JCD60周年事業との連動活動の実施。

3) JCDホームページの刷新の第1フェーズ及び第2フェーズへの進行

4) Facebookページ及びWebページの情報強化

5) タカハシツキイチの運営及び情報発信。

6) 東京デザインセンター発信と連動出来る広報活動の実施。

7) JCD事業の情報発信。

⑤国際委員会（委員長：武石正宣）

来年度はこの状況も見ながらなのですが、オンラインでのイーストギャザリングを、6月以降あたり、開催しないかという打診を香港HIDKAと台湾CSIDから受けており、なにかしらの形で進めたいと思います。早くこういったデザイン界の動きが通常になりますように願ってなりません。

⑥賛助委員長（委員長：羽隅斉明）

1. プロダクトオブザイヤー2021

今回で第15回となりますが、本部賛助会議において各企業の新商品発売時期、従来のタイトなスケジュールを鑑み、実施時期を従来からずらすことで進めます。審査方法もWeb上の投票方法は継続し、審査方法を予選、本選で検討。

本選では各会員の応募商品のPRをリアル+オンラインで実施。スケジュールとして

4月末からエントリーを開始し、秋口に結果発表で検討中。詳細は3月の賛助委員会会議にて詰めていく。また2021受賞企業の商品については前回同様「商店建築」内での掲載、紹介を実施。

また中長期的視野に立ち、賛助以外の募集の可能性など、PDOY の位置づけを高める方法も議論していきたい。

2. 賛助会員の紹介カタログの作成

今期の定期理事会での議案提示後、本部賛助委員会でも深い議論はできていないが 60 周年記念とも絡めながら全国賛助企業を紹介するガイドブックの作成を検討。

3. ジャパンショップ 2022 への出展

今回初めての試みで昨日までの 2021 の展示会に出展。

主催者側との経費的な合意は必要であるが、宣伝効果や会員の招致効果も期待出来る為、継続できるよう取り組んでいく。

4. IDM との取り組み

IDM ビューイングに関し内容を検討し、参加する機会を検討。

上記事業計画の実施において、内容毎に分科会を継続させ取組みます。

副委員長：斉藤、藤原（敬称略）

1. リーダー：山本 メンバー：松田、古川、藤光
2. リーダー：品川 メンバー：藤原、本間
3. リーダー：羽隅 メンバー：藤原、本間
4. リーダー：松田 メンバー：棟方 他（各分科会には副委員長も随時出席）

⑦空間委員会（委員長：新宮和行）

1. JAPAN SHOP 2022 について

・昨年度（2020）の開催中止から、今年度は無事開催することが出来ました。

現況（コロナ禍）を踏まえ縮小傾向でしたが、2022 年度は例年通りの開催が出来る前提で計画を進め、例年より更なる進化した JAPAN SHOP2022 を推進します。

2. 年鑑刊行委員会について

・「年鑑日本の空間デザイン 2022」について本年度は刊行記念パーティーの実施など、可能な限り集える場所を提供します。

⑧ 交流委員会（委員長：折原美紀）

コロナ感染状況がまだ終息には至ってないので、おしゃべり会も引き続きオンラインにて 2~3 ヶ月に 1 回程度の開催を考えております。早速世界と繋がる大陸リレー Vol.3 は、アジアで活躍するデザイナーにフォーカスし、5 月 14 日に開催決定。また別の交流イベントとして賛助委員会と連携し、我々デザイナーが地球環境に貢献できるデザインを考える「SDGs・サステイナブル素材・エコ素材」などの勉強会なども新たな試みとして計画していこうと思っております。

⑨ 60 周年記念事業実行委員会（委員長：大滝道晴）

■実行委員会開催及び各部会分科会

○2021 年度も会議を実行委員長として継続開催を行う。

○各分科部会からの、実施に向けてのより具体的詳細の検討を行う。

- * 特に記念式典・基調講演・懇親パーティーにおける、関係する人選の検討。(招待客、挨拶リスト、タイムスケジュール等の確定及び、式典当日のスタッフ編成等)
- * 予算確定のため、各分科部会に関連する項目の正式見積を取り、予算確定をはかる。
- * 各支部に関しても、より具体的な予算とスケジュールを確定して、本部（実行委員会含む）からのサポート体制を確定する。
- * Web 配信や会場投影内容等の検討。
(ex. コンセプトスローガン、登壇者プロフィール、北陸支部の紹介方法、etc)

○招待客等における、招待状の原案作成、配送準備を行う。

○会場において、リハーサル等の実施。

(2) 支部統括部

(部長：永井資久)

- ・支部統括部長としての事業計画（小田関東支部長主導）
 - ・全国支部活性化計画
- 本部と連携し、各支部との連絡連携構築、支部会員の増強、支部要望の集約及び実行
- ・他団体との協働による JCD の認知度及び地位向上
 - ・日本空間デザイン賞への参加及び開催協力
 - ・空間デザイン機構への参加
 - ・IDM への参加及びイベント開催協力
 - ・スカイデザインアワードへの後援協力

①北海道支部（支部長：高橋 恵）

今年度の活動方針

「デザインの必要性和ネットワークの大切さを JCD の活動を通して広めていこう」

- ・会員を増やす、他団体との交流をリモート等を使用して増やす活動を積極的に行っていく。

活動内容

- | | | |
|----------------|---------------------------------|-------------------------|
| 2021年4月22日(木) | 北海道支部総会 | ・収支報告、活動計画、予算案承認、懇親会等 |
| 2021年5月13日(木) | 運営会議 | ・定時総会の為の最終打合せ |
| 2021年5月29日(土) | 定時総会 | |
| 2021年7月08日(木) | 運営会議 | ・総会打ち上げ、北海道支部デザインアワード計画 |
| 2021年11月11日(木) | 運営会議 | ・北海道支部デザインアワード計画、SODA |
| 2021年12月 | SODA 桑園小学校 | |
| 2021年12月 | Design Xmas Party | |
| 2022年2月 | 北海道支部デザインアワード, 60周年事業セミナー | |
| 2022年3月 | 運営会議、来期の事業計画等, 収支状況の報告、支部総会計画 等 | |

②東北支部（支部長：大塚真司）

【今年度の方針・目標】

- ・ JCD 設立 60 周年に向けた東北支部独自のイベント開催（講演会・シンポジウム等）
- ・ WITH/AFTER コロナ対策と JCD 活動の両立
- ・ 会、賛助会員が互いに協力できる環境づくりの強化

【主な活動スケジュール】

- 4月 東北支部役員会
- ・ 令和3年度活動計画
 - ・ 活動予算案
 - ・ 令和2年度収支報告
 - ・ Soda 実行委員選定
- 5月 東北支部定時総会（山形開催）
- ・ 地区長会議
 - ・ 通常総会（収支報告・活動計画・予算案等の承認）
 - ・ 賛助会員企業、商品PR
 - ・ 勉強会（会員に依るデザイン発表会）
 - ・ 懇親会
- 7月 東北支部ゴルフコンペ（第2回 利府ゴルフ倶楽部 予定）
- ・ 懇親会
- 8月 ビアパーティー開催（DSA/SDA 共同開催 予定）
- 9月 Soda 活動準備委員に依る運営会議
- 10月 デザインキャンプ及び賛助会員企業・商品PR会
- 12月 日本空間デザイン賞 東北支部展示会開催（JCD・DSA・SDA 共同開催）
JCD60周年事業 会員基調講演
- 2月 Soda ワークショップ説明会
Soda ワークショップ開催（弘前大学教育学部 附属中学校）
- ・ 懇親会

③関東支部（支部長：小田秀樹）

* 今期は JCD60 周年事業の本部活動のサポートと支部委員会活動を充実させる。

（新藤力副支部長、品川正之副支部長）

■ 研究セミナー：委員会：福田裕治委員長、石橋美幸副委員長、下村牧子副委員長

- 1) 5月「とくトーク」賛助会員と開催、7月「とくトーク」あの人は今を開催
- 2) 9月「とくトーク」賛助会員と開催、11月、1月、3月「とくトーク」を開催予定

■ 支部賛助委員会：品川正之委員長、奥弘史副委員長、原康喜副委員長、藤原巧副委員長、
本間克典副委員長

- 1) 原則月1回の委員会を開催し、下記の掲載の活動目標の推進を図る。
- 2) 関東支部正会員及び賛助会員相互のコミュニケーションの活性化を図り正会員の委員会への参加要請、本部賛助委員会、Soda 委員会への協力等と本部賛助委員会のある月は原則

支部賛助委員会と同日開催とする。

- 3) 賛助会員のビジネスに寄与できるイベント等を企画する。今年度はノレンカイ、ショールーム見学を徐々に開催できるよう計画する。別途立ち上げたユーチューブチャンネルも賛助企業のプレゼンの場としてさらに活用できるように充実を図る。
- 4) 賛助会員の意見を集約し、協会に意見具申する。 possible の限り交流を促進するための親睦イベントを企画する。花火会、BQ会、ボーリング会などと、関東支部の他委員会と連携し関東支部のイベントのサポートにあたる。

■広報委員会：古川紳太委員長、大滝道晴副委員長

- 1) 機関誌の発行は年3回、各20ページ立て4c印刷900部発行
- 2) 一回目（7月末発行）総会特集・とくトーク・プロダクトアワード・SODA委員会報告・新人会員紹介・賛助会員広告など
- 3) 二回目 夏／秋号（11月中発行）・とくトーク・会員の近況・クラブ活動報告・新人会員紹介・夏のパーティー報告・SODA委員会報告・賛助会員活動報告・賛助会員広告など
- 4) 三回目 冬／春号（3月中発行）・とくトーク・会員の近況・新人会員紹介・冬のパーティー報告・SODA委員会報告・賛助委員広告など

■メディア委員会：水谷晶人委員長、中村茂雄副委員長

- 1) トップページの画像に変化を持たせるなどホームページの鮮度を保っていく。
さらに正会員のHP掲載数を増やす。
- 2) 「JCD関東支部 Face book」にてイベントの立ち上げを積極的に行いイベントページに認知度の向上を図る。
- 3) 賛助会員企業の建材・素材・技術を採用した「施工例」ページの増加これにより、賛助会員企業の認知度のアップを図る。
- 4) 上記のコンテンツを「JCD関東支部 Face book」から「JCD関東支部ホームページ」への誘導へ役立てる。
- 5) JCD本部の広報委員会との連動を行い、JCD関東の認知度の向上を図る

■交流委員会：折原美紀委員長、雲野一鮮副委員長、村上敦副委員長

- 1) 集まるのが未だ緊急事態宣言下の現在では見通しが立たないが、60周年事業もあることからリアルイベントのサポートやオンライントークイベントやセミナー合体型交流会を全国の支部との合同で企画していきたいと考えています。

■特別委員会：星明臣委員長、木村倫香副委員長

- 1) JCD/60に相応しいピカピカの企画を立てたいと考えております。皆様からのご提案もお待ちしております。

④ 北陸支部（支部長：木村嘉秀）

支部運営方針

北陸のデザイン界の中心に入れる様に、まずは足固めをしっかりと

1. コロナ過ではあるがまずはイベントをきちんと開催し、
年間の行事やイベントの基盤をつくる
2. 正会員および賛助会員の拡充

残念ながら1名減りました。

イベントを通して告知をし、賛助会員も含めて拡充していく

3. 正会員への共有

JCDの事をまだよく知らない会員も多い。

交流の場を増やして、意味や意義を共有していく

活動予定

令和3年

3月27日 空間デザインフォーラム（金沢）

4月下旬 北陸支部総会

6月下旬 支部会議

8月上旬 インターンシップ

9月上旬 支部会議

11月中旬 60周年シンポジウム（県産業高度化センター）県デザイン展開催時期と併せる

12月上旬 支部会議

令和4年

1月下旬 新年会

2月上旬 空間デザインフォーラム（富山）

3月上旬 委員長会議

⑤ 中部支部（支部長：鳥居佳則）

4月 支部会議（ZOOM）

- ・中部支部による60周年記念祭計画

5月 支部会議（ZOOM）

- ・中部支部による60周年記念祭計画
- ・定時総会参加
- ・支部総会準備

6月 支部会議

- ・中部支部による60周年記念祭計画
- ・支部総会開催

7月 支部会議

- ・中部支部による60周年記念祭計画
- ・中部支部 SODA 事業について
- ・若手デザイナーによるシンポジウムの開催について

8月 夏のビアパーティー開催予定

9月 支部会議

- ・中部支部 SODA 事業について
- ・支部アワード開催について（学生部門のみ）
- ・若手デザイナーによるシンポジウムの開催について

10月 支部会議

- ・中部支部による60周年記念祭計画
 - ・支部アワード募集開始（学生部門のみ）
 - ・デザイントリプレックス18について
 - ・若手デザイナーによるシンポジウム開催予定
- 11月 支部会議
- ・中部支部による60周年記念祭計画
 - ・支部アワード作品展について（学生部門のみ）
 - ・忘年会について
- 12月 忘年会開催予定
- 1月 支部会議
- ・デザイントリプレックス18について
 - ・新年会及び60周年記念祭開催予定
- 2月 支部会議
- ・支部アワード作品展について（学生部門のみ）
 - ・デザイントリプレックス18開催
 - ・北陸支部デザインフォーラム参加予定
- 3月 理事会参加予定

⑥ 関西支部（支部長：中村裕輔）

昨年度に手探りで開始したリモートイベントですが、ある程度の手応えを感じながら今年によりブラッシュアップしたリモートならではのトークイベントの開催に拍車を掛けます。

[USD-0大阪デザイン団体連合との取り組み]

- ・USD-0大阪デザイン団体連合を中心とした大阪万博への取り組み
 - ・今年開催の40周年事業の協議
- 4月 USD-0主催デザインカンファレンス オンラインセミナー第3弾
各デザイン団体（JID, DSA, パーステック協会, JCD）代表によるトークセッション
- 5月 スプリングセミナー 「with コロナ デザインのビジネスチャンスはそこや！」
専門家を交えた関西支部メンバーによるトークセッション
- 7月 支部集会
今年度体制・方針の報告、賛助会員PR会の開催
- 8月 大阪市立住まい情報センター タイアップセミナー
小学生を対象にしたテーブルライト制作のワークショップ
- 10月 関西学生シンポジウム作品発表会
各団体から審査員・コメンテーターを選出
- 11月 オータムセミナー
- 12月 クリスマスイベント
- 1月 大阪市商店会総連盟主催 大阪市あきないグランプリ表彰式
- 2月 修成建設専門学校 教育課程編成委員会（卒計審査）への参加

⑦中国支部（支部長：藤坂浩匡）

中国支部の活動方針は「デザインの追求と若手会員の増強・支部内の活性化」をテーマに、活動します。前年度と同じテーマであります。コロナ禍のため十分な活動が出来なかったためもう一年同じテーマで活動したいと思います。そして、本年度は特に「若手正会員の増強」を実現したいと思います。また JCD60 周年記念事業にも支部として積極的に連携をとり、地域に JCD のブランド発信を行うと共に支部内部の活性化にも繋げたいと思います。

[3 年度事業内容]

● 組織改革・・・若手正会員の増強、賛助会員との連携強化、JCD60 周年事業への参画

● 例会活動・・・本部、支部からの連絡事項、支部内の審議事項、活動計画立案。

親睦活動などに加え、デザイナーによる情報発信でデザインの追求
通年・・・各地（岡山・福山・広島）での懇親会、賛助会員によるミニセミナー。

秋・・・国内外を問わず、デザイン研修旅行の計画。

冬・・・他支部、他団体との交流会「鍋塾」の計画。

4 月 3 年度中国支部総会及び第 1 回例会

前年度事業報告・新年度事業計画発表・新組織発表（岡山）

5 月 29 日 令和 3 年度第 1 回定例理事会、定時総会（関東支部支部）へ ZOOM 参加（東京）

6 月 第 2 回中国支部例会&ミニセミナー（福山）

8 月 第 3 回中国支部例会&ビアパーティー（広島）

10 月 第 4 回中国支部例会&ミニセミナー（岡山）

10 月 22 日 JCD60 周年記念式典・基調講演・懇親会へ参加（東京）

10 月 23 日 令和 3 年度第 2 回定例理事会への参加（東京）

11 月 デザイン研修旅行（未定）

12 月 4・5 日 広島デザインデイズ 2021 開催（広島）

12 月 第 5 回中国支部例会 & 大忘年会（福山）

2 月 第 6 回中国支部例会 & デザイン交流会・鍋塾（未定）

●地域活動

支部事業である、「広島デザインデイズ」を地元との交流、そして広島・岡山を中心とするデザイン団体、建築・デザイン系の大学・専門学校、地元商店連合会など参加者を増やし地元根付いたデザインを中心とした交流の場活にしたいと考えます。

7 月 広島デザインデイズ 2021 第 1 回準備委員会（広島）

8 月 広島デザインデイズ 2021 第 2 回準備委員会（広島）

9 月 広島デザインデイズ 2021 第 3 回準備委員会（広島）

10 月 広島デザインデイズ 2021 第 4 回準備委員会（広島）

11 月 広島デザインデイズ 2021 第 5 回準備委員会（広島）

12 月 広島デザインデイズ 2021 開催（広島）

⑧ 四国支部（支部長：日下大祐）

60 周年事業を核にイベントを企画する。

上記に伴い賛助会員の増強を目指す。

他団体、賛助会員と連携にてコラボ企画等にて魅力の有る会を目指す。

女性会員が集まりやすい環境を目指し支部の魅力を上げる

地元四国の次世代が参加しやすい環境づくりと育成をめざす。

上記にて正会員、支部会員現あわせて 30 名以上、最終的には定款正会員 20 名以上を目指す。

現在正会員 15 名 支部会員 10 名

[事業予定]

5 月、定時総会

6 月、支部例会 60 周年事業イベント実行委員会

8 月、ビャーガーデンイベント開催予定

9 月、支部例会 60 周年事業イベント実行委員会

11 月、支部例会 60 周年事業イベント実行委員会

12 月、他団体交流忘年会開催予定

1 月、賀詞交歓会 60 周年事業イベント実行委員会

2 月、60 周年事業イベント予定

3 月、SHIKOKU デザインフェュージョン開催予定

4 月、お花見イベント開催予定

⑨九州支部（支部長：深町俊彦）

九州支部は、NPO 法人「FUKUOKA デザインリーグ」への参加を続けながら、社会貢献と勉強会などへの参加を行っていき、知名度拡大と会員増強に力を入れていきます。

JCD 60 周年事業の取組みを今年初めより協議会を設け、60 周年事業のためだけでなく、今後の九州支部の新たな事業活動の柱を作るべく活発な協議をまとめていく取り組みを行います。又、日本空間デザイン賞パネル展の充実を図る為、他団体との協調を図っていきます。SODA 事業と少し趣を変えた支部ならではのデザインスクールキャラバンの早期開催を目指し、魅力ある九州支部づくりを行なっていきます。支部例会も、正会員と賛助会員の大きなコミュニティのケーションを図る場として、大変有効に活用されていますので、今後も毎月の開催を基本に行ってまいります。

以下予定活動（コロナ禍収束を見据えて）

「一年を通して、九州支部の進化と深化を図る協議を継続します。」

- (1) 4 月～毎月 月例会開催（各種セミナー・勉強会・懇親会）
- (2) 5 月 FUKUOKA デザインリーグ理事会及び総会参加
- (3) 6 月 支部レクリエーション開催
- (4) 7 月 ビアパーティー開催
- (6) 10 月 出前授業ワークショップの開催
- (7) 11 月 空間デザイン賞パネル展の開催
(JCD60 周年事業・九州支部としてセミナー及び展示会を検討中)
- (8) 12 月 九州支部忘年会開催
- (9) 1 月 九州支部新年会開催

⑩沖縄支部（支部長：山里健市）

■ R3 年度の活動について

1. 3 年度、夏頃からは コロナの影響も軽減されていく事を祈り、各イベントが行えるよう準備は整えながら 引続き JCD の認知度 UP を目指します。

2. 賛助会員との交流を深め 一体感ある支部を目指します。
3. JCD OKINAWA 空間デザイン賞 開催の可否を夏頃までに判断しますが、準備は進めて参ります。
4. SODA については 小学校 1 校、高等学校 1 校の開催ができるよう引続きお願いして参ります。

[主な活動計画]

- 1) 4～6 月
 - ・支部定例会の開催 (4 月・6 月)
 - ・異業種交流会参加 (インテリア産業協会・IC 協会 他)・・・未定
 - ・賛助委員会主催の懇親会・セミナーなどの計画～開催。
 - ・60 周年事業、支部開催分の内容について意見交換。実行委員会発足。
 - ・空間デザイン賞開催について 実行委員にて意見交換。
- 2) 7～9 月
 - ・支部定例会の開催 (8 月)
 - ・JCD CREATERS BEACH BBQ 2021 開催・・・夏前までに開催の判断。
 - ・60 周年事業、支部開催の意見交換。
- 3) 10～12 月
 - ・支部定例会の開催 (10 月・12 月)
 - ・JCD OKINAWA 空間デザイン賞の開催。・・・夏前までに開催の判断。
(60 周年事業、支部開催を一緒に絡める事が可能か検討)
 - ・トータルリビングショーへの共同参加・・・未定
(前年同様、イベント来場者の子供達と お店のミニチュア模型作り)
 - ・JCD 沖縄 忘年会「モノズクリガンバッタ 2021」開催
(建築・インテリア・グラフィック。各デザインに関係する個人・他団体と 1 年を振り返って。)
- 4) 1～3 月
 - ・支部定例会の開催 (2 月)
 - ・SODA (ワークショップ) の開催。
 - ・60 周年事業、支部開催。(空間デザイン賞と同時開催可能か検討)

(3) **総務部** (部長：太細 通)

① 財務委員会 (委員長：太細 通)

令和 3 年度予算は、事業活動収入 5,699 万円、事業活動支出 5,942 万円で、243 万円の大幅な赤字収支計画となります。

内訳としては、本部が 274 万円の赤字、10 支部のうち 2 支部は若干の赤字ですが 10 支部合計では 31 万円の黒字の収支予算です。

本部が 274 万円の赤字の主たる理由ですが、来年度は設立 60 周年記念事業として、式典、講演会、祝賀会の開催、記念誌の発行、また 10 支部では各セミナーの開催を予定しています。

その費用として本部では 992 万円、本部から支部のセミナーに各 20 万円、10 支部で 200 万円の支援し、計 1,192 万円を計上しました。その収入は記念式典参加費で 180 万円、賛助会員の皆様から 416 万円の協賛をいただき、計 596 万円の収入を見込んでおります。

結果、その収支差が 596 万円の赤字になります。

また本部の収益には職員の退職給付引当金を含んでいますので、その分を見込む必要があります。

科目別に述べますと、事業活動収入において、会費収入は昨年度予算とほぼ同じ 3,160 万円。事業収入は昨年度予算に比べ 200 万円の減予算としています。その主な理由は、DSA との協業であります 3 回目の日本空間デザイン賞の設計奨励事業がコロナ禍で応募数減を見込みその応募料 230 万円減が主たる要因です。

事業活動支出においては、昨年度予算より合計 884 万円増となります。この増は先ほど述べました 60 周年記念事業費として 1,232 万円が主たる理由になります。それでも記念事業を除いた事業費計が 348 万円減額していますのは、設計奨励事業費が応募数減を見込み、支出を昨年度に比べ 270 万円減額しているためです。

結果、収支差額は 243 万円の赤字で昨年度予算より 697 万円の大幅な減になります。

また年々増加していました会費収入が昨年と比べ横ばい状態です。

基本的に会費が事業活動の主たる源泉ですので、今後も更なる会員増強を図り会費収入の増を図らないかぎりこれからの大きな事業活動は望めません。昨年度同様会員増のためには本部、支部とも留保金の活用方法などを考えていく必要があるかと思えます。皆さんで知恵を絞り会員増強を図っていきましょう。

② 功労者選考委員会（委員長：星 明臣）

当委員会の主務は、当協会／特別功労賞表彰規定などに則り、「JCD 功労賞・支部功労賞」「評議員」「顧問・参与」の候補者を会員から募り、推薦された各候補者の貢献度などの与件を審議し、該当する候補者を、理事会に推挙します。一方、JCD への社会的認知度や、地位向上策の一環として、継続的に「国交省大臣表彰」の候補者を選考し、理事会へ推挙しております。

肝要なことは、誤謬なき・適正な推挙を心がけることです。

尚、当委員会は、小坂副理事長、太細専務理事、小田理事、奥平評議員、寒川評議員、金沢評議員、星の 7 名で構成されています。

3. その他会務に関する事項

(1) 功労賞表彰

令和 3 年度功労賞を以下の方に贈呈することを決定した。

特別功労賞受賞者

鹿目 久美子氏（関東支部）

西川 せいじ氏（中部支部）

全国賛助会員 大光電機株式会社（代表取締役社長 前芝 辰二氏）

支部功労賞受賞者

該当者なし

(2) 関係機関や団体との交流、その他の事業へ後援や協賛など

公益社団法人商業施設技術団体連合会や空間デザイン機構への運営参加、一般社団法人日本空間デザイン協会と統合した日本空間デザイン賞の推進、また新規事業及び継続して行われる各事業の後援、協賛を通じ積極的かつ実のある活動を目指す。